

事業名 CD	108	たな卸し資産管理
細分化した事業名		
事業担当課室 CD	600000	市立病院
		整理コード

〈事務事業の位置づけ〉

第6次長期総合計画での目的体系	大項目	健康な暮らしを守る保健・医療の充実	
	中項目	医療体制の充実	
	小項目		
関連する個別計画等	韮崎市立病院経営健全化計画	根拠条例等	地方公営企業法
関連する事業			

〈事務事業の概要〉

事業の目的 (何のためにするのか)	<p>医療事故防止及び適正な経理事務 期限切れの診療材料・医薬品の使用を未然に防ぎ、在庫管理を徹底することにより経費節減を図る。併せて適正な決算経理を行う。 診療材料は、その品目が多岐にわたるに加え、診療材料納入業者から（X線フィルム、医療機器用トナー等）消耗品も購入しているため）消耗品費・医療消耗品費・診療材料費との仕分けに苦慮していたため、発注方法等を見直すことで、適正な経理を行う。</p>
事業の対象 (誰・何を対象にするか)	患者（医療事故防止）及び職員（経費節減、適正な経理事務）
これまでの改善経過	<p>医薬品については、医薬品在庫管理システムが導入されており、月締めによる入庫・出庫管理及び在庫管理（数量・価格）は徹底されており、例年年度末に棚卸しを行っている。 診療材料については、平成22年度に上半期（9月末）、下半期（3月末）にたな卸しを実施した。 期限切れ等死蔵品、遊休品を一掃し、使用可能物品のみを在庫品として再評価し、貯蔵品として今年度の診療材料費の執行額から貯蔵品に振替を行った。</p>
事業の手段 (どんなやり方(手法)で)	<p>〈実施・運営方 ■市 □委託 □補助金 □その他（ ）法〉 平成22年度 診療材料、消耗品（医療を含む）等の経費削減に向け、医師、外来、病棟等でばらつきがあった物品を出来るだけ統一品を使用することとし（品目の削減）、診療材料は発注も中央材料室で一元化し、出来るだけ現場発注をしないこととした。 各部局から物品請求も毎週月曜日から、月に2回とし事務への発注を紙からエクセルデータ入力に改めた。 各看護副師長を診療材料の管理担当とし、事務局と合同で外来、中央材料室、病棟の診療材料のたな卸しを行い、在庫管理を徹底した。</p>
事業の成果 (どのような状態にしたいのか) (どのような効果を得るのか)	<p>漠然と注文を受け診療材料等を購入していたが、現場が定期的に在庫管理を行うことで、物品の先入れ先出しがルール化され、死蔵品（期限切れ）、遊休品（使えるのにあることを知らない）を一掃することが出来た。 診療材料は3月末のたな卸しにより、在庫品517品目が確認できた。購入金額が確認できないものもあったが、現状価格に再評価し8,639,936円を診療材料費から貯蔵品に振り替えることができ、決算上その分の経費が削減できた。</p>

〈投入費用及び従事職員の推移〉

		20年度	21年度	22年度
A	事業費 (千円)			358,285
財源内訳	国庫支出金			
	県支出金			
	市債			
	その他			358,285
B	担当職員数(非常勤 職員 E) (人)			0.10 0.82
C	人件費(平均人件費 × E) (千円)			5,509
D	総事業費(A+C) (千円)			363,794
*参考	H22)市民1人当りの事業コスト	118,128 円	H22)市民1人当りの行政サービス費用	599,027 円

注1)担当職員数には、1年間に当該事業に携わった職員数(職員と非常勤嘱託職員を区分)を他事業と按分して記載してあります。
 注2)平均人件費は各年度決算額(職員給与費)から算出した、20年度(6,909千円)、21年度(6,823千円)、22年度(6,719千円)を使用しています。
 注3)一般財源とは用途の制限のない財源で、市税(市民税・固定資産税など)、地方交付税(市町村均衡を図るための交付金)などを言います。

〈事業を数字で分析〉 この欄では、事業の目指すべき方向を分りやすく示すため、数値指標を設定し実績数値を記入しています

指標名	指標の算出方法	実績値		
		20年度	21年度	22年度
活動指標 棚卸資産回転率 回転率低＝貯蔵品多 (1年の回転数) 1 薬品回転率 2 診療材料回転率	当年度消費額 / 期首・期末平均残高 257,061,792 円 / 17,982,374 円 8,639,936 円 / 37,105,970 円 (参考)			14.3 8.6
成果指標 棚卸資産回転日数 (1回転する日数) 1 薬品回転日数 2 診療材料回転日数	365日 / 棚卸資産回転率 365日 / 14.3 365日 / 8.6 (参考)			25.5 42.4
効率指標 適正回転日数 (独自に設定) 1 薬品回転日数 30日 2 診療材料回転日数 30日	365日 / 12回転 365日 / 12回転			△4.5 12.4

〈事業を自己評価〉

妥当性 (事業の手段・活動は妥当ですか)	<input type="checkbox"/> A 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C 妥当でない 医薬品の資産管理は、使用期限の管理に課題が残るが(まれにしか使用されない薬品の管理)概ね現状の管理で妥当と考える。 診療材料の場合は、中央材料室で各現場へ払い出しを行い、現場にて未使用で保管しておけば棚卸しの際には、貯蔵品となり、払い出しの時点では、貯蔵品の減少とならない場合もある。本来、購入・使用の都度入庫・出庫の振替を行い貯蔵品の増減を把握すべきであるが、電算化されていない現状から、年度末の棚卸しの実績を貯蔵品とすることはやむを得ないと思われる。		
成果 (意図した成果が上がっていますか)	<input type="checkbox"/> A 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ上がっている <input type="checkbox"/> C 上がっていない 懸案であった、診療材料の在庫が棚卸資産として決算経理が出来たことから、成果はあったものとする。 診療材料は、今年度初めて棚卸しを実施したもので、当年度以前に購入したものの単価等を確認するのに非常に時間がかかった。電算化を含めより効率的な方法を検討する必要がある。		
効率性 (コストを見て効率的ですか)	<input type="checkbox"/> A 効率的である <input checked="" type="checkbox"/> B ほぼ効率的である <input type="checkbox"/> C 効率的でない 在庫管理について、回転率からみると、薬品は1月弱、診療材料は1月強の在庫で運営していることになる。 民間企業では従来から、少ない在庫で運営をすることが効率的とされてきたが、突発的な事故や災害により入荷が困難となった場合に立ち行かなくなることも想定され、突発的なリスクに対応できることも求められてきていることから、現状の1月程度の在庫は効率的と考える。		
総合評価	<input type="checkbox"/> A 期待以上に達成 <input checked="" type="checkbox"/> B 期待どおりに達成 <input type="checkbox"/> C 期待以下の達成		
今後の事業展開	<input type="checkbox"/> 重点化 (コストを集中的に投入する) <input type="checkbox"/> 手段の改善 (実施主体や実施の手段を代える) <input type="checkbox"/> 効率化 (結果単位あたりのコストを下げる) <input type="checkbox"/> 簡素化 (事業の規模や内容を縮小する) <input type="checkbox"/> 統廃合 (他の事業と統合する、または廃止する) <input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり		
改善・改革案	改善・改革の概要・方向性 (いつまでに、どういう形で具体化するのか)		
	(1) 中長期的 東海沖地震等大規模災害が想定されていることから、災害拠点病院として薬品、診療材料の在庫管理についても検討する必要がある。	(2) 24年度 平成23年度中の検討結果を踏まえ、実践する。	(3) 23年度 診療材料の在庫管理について電算化を含めより効率的な方法を検討する。災害時に備えた薬品等の在庫のあり方を検討する。
	22年度の改善計画 診療材料の棚卸しの実施。経費削減対策としての発注方法の見直し。各部署での定期的な物品在庫管理		
22年度の改善結果 診療材料のたな卸しにより、在庫品517品目が確認でき、8,639,936円を診療材料費から貯蔵品に振り替えることができた。			
市民(地域)や民間、他官庁との役割分担(市民との協働の視点などから考えられること)			
特になし。			
課長所見	病院の診療に用いる医薬品を除いた診療材料・衛生材料そして消耗品は、数多くの種類が在庫として外来、救急カート、中央材料室、病棟において管理使用している。 在庫管理の合理化・適正化を図るため、各科共通使用材料の規格統一化、新規材料の採用を制限するための一減一減、他病院との契約状況調査による値引き率の拡大を図ってきた。 また、経費の節減を目指すことや、死蔵品、遊休品を一掃するため、これまで手付かずの診療材料について、看護局の協力の下に、今年度初めて棚卸しを行った。517品目8,640千円の在庫品を確認でき、決算上での「資産管理」という成果が上げられた。 また、診療材料は納品、払い出し業務を中央材料室に一元化した。将来的には、材料管理のシステムを導入し、発注・納品・払い出しを一元化していきたい。 今後も、これを継続し全職員にも周知し、在庫管理の合理化、適正化と同時に経費削減に傾注していきたい。		